

けんすけタイムズ



# Kensuke Times 希望

Press KIBO

愛知13区版

希望の党 プレス希望編集部

〒446-0058

愛知県安城市三河安城南町 1-11-5

電話 (0566) 70-7122

office@oniken-web.jp

https://www.oniken-web.jp

今回のタイトル

総選挙を振りかえって

衆議院議員

愛知13区：安城・刈谷・碧南・知立・高浜



# おおにし健介

## 1. 逆風を乗り越え4回目の当選

突然の解散、希望の党への逆風の中で、小選挙区で4度目の当選を果たすことができたのは、ひとえに連合をはじめとする支援組織の皆さんや10年間私を育てていただいた愛知13区の地域の皆さんの温かく力強いご支援の賜物です。また、政党や風に惑わされることなく、地元や国会での日頃の活動で個人、大西健介を評価していただいた愛知13区の有権者の良識のおかげです。心より感謝申し上げます。

今回の総選挙では、立憲民主党の躍進と無所属候補の健闘の一方で、小池代表・都知事の地盤の東京10区で側近の若狭氏が落選したことに象徴されるように希望の党の候補の苦戦が目立ちました。

民進党前職87人のうち引退や不出馬を除く80人がどうなったかを見ると、立憲民主党からの15人が全員当選し、無所属の21人も18人が当選している一方で、希望の党から立候補した44人は25人しか当選しなかったことから、希望の党に逆風が吹いていたことは明らかです。

ちなみに、愛知では15選挙区中6つの選挙区で、野党候補が勝利を収めました。2区の前田元久（希望）、3区の前田昭一（立憲）、5区の前田広隆（立憲）、7区の前田志桜里（無所属）、11区の前田伸一郎（希望）、12区の前田和彦（無所属）、13区の大西健介（希望）、いずれも前回の選挙でも小選挙区で勝っている候補が今回も小選挙区で勝っており、有権者は政党ではなく個人で判断している部分も大きいかもしれません。

全体としては、野党がバラバラで戦った結果、自民党が改選前議席を維持する結果となってしまいました。

ただし、改選前の民進党の議席は87で、立憲民主、希望、無所属の民進党出身者を足すと105人と増えていることは注目に値すると思います。民進党のままで希望の党と別々で戦っていたとしたら、民進党が議席を減らし、希望の党が躍進した可能性もあります。

結果は、自民党の大勝ですが、これは小選挙区制度のなせる業です。自民党の得票率は48%でしたが、議席では75%を占める結果となりました。ちなみに、投票しなかった人を含む全有権者に占める自民の絶対得票率は、小選挙区で25%、比例区では17%に過ぎません。これで自民党が「我々は選挙で国民の信任を得た」と大きな顔をして好き放題やられたらたまりません。



### 第48回来議院議員総選挙結果

#### おおにし健介（希・前） 大見正（自・前） 下島良一（共・新）

|      |          |          |         |
|------|----------|----------|---------|
| 碧南市  | 14, 322  | 13, 919  | 3, 448  |
| 刈谷市  | 35, 586  | 31, 015  | 5, 886  |
| 安城市  | 41, 615  | 42, 134  | 6, 026  |
| 知立市  | 15, 320  | 14, 005  | 2, 749  |
| 高浜市  | 9, 628   | 8, 508   | 1, 480  |
| 13区計 | 116, 471 | 109, 581 | 19, 589 |

愛知13区

## 2. 大きかった犠牲

今回、一時は一気に政権交代を狙うほどの勢いを見せた希望の党が急速に失速し、野党第一党にさえなれなかったことは大きな誤算ですが、それよりも希望の党への逆風のために多くの有為の人材を失ったことが大きな痛手です。

特に、5回連続小選挙区で当選を果たし、選挙に強いことで知られ、選対委員長を務めた馬淵澄夫代議士が落選したことはショックでした。私は、馬淵澄夫代議士の政策秘書となることで政治の道に足を踏み入れました。馬淵は私の政治の師であり、オヤジのような存在で、これまで二人三脚で歩んできました。混沌とした政界の中で、今、馬淵がいないことは、私のとっても党にとっても大きな痛手です。

また、森友・加計疑惑の追及の急先鋒だった福島伸亨や宮崎岳志、南スーダン PKO の日報問題で稲田防衛相を鋭く追及した緒方林太郎、厚労委員会で年金や労働法制とともに戦った井坂信彦など若手で優秀な仲間を多く失ったことは痛恨の極みであり、彼らの分も残った我々が頑張らなければなりません。

私は、「お友達」だから言っているのではありません。彼らが、今回、3度目の当選を果たした自民党の「魔の2回生」より、地元活動でも国会でも何倍も仕事をしていて、何倍も優秀な議員だったからであり、彼らが国会での活躍の場を失うのは国家の損失と言っても過言ではありません。

## 3. 希望の党に託す希望

メディアの報道のしかたもあって、世間では、民進党から希望の党に合流した人は、小池人気に乗ろうと踏み絵を踏んだ変節漢のように言われていますが、けっしてそんなことはありません。

私は、政治活動を始めた時から、一貫して、政権交代可能な二大政党的政治を実現することを目標としてきました。かつての社会党のような万年野党として与党の批判勢力を目指すならともかく、政権の「受け皿」を目指すならば、我々は、現実的な安全保障政策を掲げ、憲法改正の議論から逃げない保守政党でなければならないのは、私は当然の帰結だと思います。

この点、立憲民主党は、今回の選挙で共産党の事実上の全面選挙支援を受け入れており、基本的国家観・安全保障政策が全く異なる勢力の間で建設的な政策形成を行うことがいかに困難かを考えると、私たちはやせ我慢してでもその道はとるべきではないと思います。

民進党への再結集を唱える人々もいますが、それは、選挙で一票を投じた有権者を愚弄する行為であり、やるべきではないと私は考えます。一方で、もともと同じ政党だったので内政においては目指すべき社会像は完全一致しており、国会では連携して安倍政権に対峙していけばよいと思います。

野党第一党にすらなれなかった希望の党ですが、それでも私は、次の二つの理由から、この党に「希望」を託しています。

まず、第一に、民進党のいわゆる保守系とリベラル系が分かれたことで、分かりやすくなったことです。右には伝統的な自民党の保守本流よりも右に傾いた安倍政権があり、左には共産党及び共産党と共闘する社民党、立憲民主党がいて、右でも左でもない中道の立場から、寛容で改革保守の選択肢を国民に提示するのが我々、希望の党です。

私は、数合わせに走るのではなく、より考え方の近いこの塊を大きくして政権を目指すべきだと思います。

第二に、ベテランの重しがとれたことです。民進党が分裂し、結果として、元首相や大臣といったベテラン議員の多くが立憲民主や無所属となり、選挙の足腰も強い、若手実力派議員の多くが希望の党に行きました。

例えば、私の同期、2009年初当選組で2012年の選挙に生き残った5人、岸本周平、玉木雄一郎、奥野総一郎、後藤祐一、大西健介は、奇しくもいずれも今回、希望の党で当選しています。他にも我々の一期先輩の大串博志、階猛も希望の党から小選挙区で勝ち上がっています。

希望の党の中核は、我々、若い世代の議員と自負しています。私もその一人として、責任を果たしていく決意です。



### Profile

▶昭和46年4月13日生まれ

▶京都大学 法学部卒

▶国会職員、在アメリカ大使館二等書記官、衆議院議員  
馬淵澄夫政策担当秘書を経て、平成21年第45回衆議  
院議員総選挙で初当選

▶「地盤・看板・鞆」なしで挑んだ平成21年  
総選挙で初当選以来、連続4期当選

▶政調筆頭副会長、国対副委員長、青年局長、  
予算委員会次席理事等を歴任。

▶3歳と7歳の2人の男の子のパパ。  
ニックネームは「オニケン」